

日本発達障害支援システム学会
2011年度
研究大会・研究セミナー
10周年記念大会
＝発表論文集＝

＝大会テーマ＝

『システムとして障害者支援をめざして』
－この10年、そしてこれからの取り組みに向けて－

- 平成 23 年 12 月 18 日 (日)
- 東京学芸大学 小金井キャンパス
東京都小金井市貫井北町 4-1-1

主催:日本発達障害支援システム学会
2011 年研究セミナー・研究大会実行委員会

ご挨拶

メインテーマ：「システムとして障害者支援をめざして

—この10年、そしてこれからの取り組みに向けて—

日本発達障害支援システム学会は、2001年4月、東京学芸大学特殊教育研究施設においてそれまで行っていた教育診断—治療教育システム学研究会を発展的に解散し、全国の心理学、教育学、医学、福祉、社会学などの研究者、そして、発達障害の支援にかかわる実践者に広く呼びかけて、結成いたしました。お陰様で、今年で開会10周年をむかえることができました。

発達障害ということばは、元来、知的障害を含むより広い概念です。本学会では開会以来、この考えに立ち、発達障害に関する様々な課題について社会がめざすべきシステムとして生涯発達支援と地域生活支援という観点から幅広く考え、支援システムの構築の過程で得られた情報の発信と交換を行ってきました。その後、社会的には2005年4月に発達障害者支援法が施行されましたが、そこでの「発達障害」の定義は、本学会のものとは異なり、かなり狭められたものでした。しかし、本学会の立場は変わりません。発達障害とは、発達期に起こった様々な障害によって生じた発達の遅れ・偏りであり、その支援をめざした研究や実践の方向性は社会システムの構築という枠組みにそって行われなくてはならないという立場をとってきました。開会以来、学会として取り組んできた研究が4つあります。

- ◆障害児教育システム研究プロジェクト：教育現場にある様々な課題を個々バラバラに考えていくのではなく、教育というひとつの社会的なシステムの視点から考え、解決していくための研究。
- ◆アセスメント法開発研究プロジェクト：発達障害の支援で求められるアセスメント法の開発とその使用のシステム化をめざした研究。
- ◆教育・指導プログラム開発研究プロジェクト：アセスメントに始まる教育・指導の過程で、第一の過程に位置付く「発達障害相談」と（保護者の心理とニーズに応じた）「発達障害カウンセリング」の構築および、第二の過程に位置付く（障害特性や発達水準に応じた）指導プログラムと指導方法の開発研究。
- ◆発達障害支援データベース開発研究プロジェクト：支援に関する実践データ（支援目標、内容、方法、計画書、教材・教具等）のデータベースとその活用システムの開発研究。

これらの取り組みが、どこまで至ることができたのか。そして、これからめざすべき方向性を皆様と考え、議論するために、ここに、日本発達障害支援システム学会2011年度第10回研究セミナー／研究大会のお知らせをし、ご案内を申し上げます。今回は、10周年記念大会として東京学芸大学小金井キャンパスにおいて学会理事会を準備委員会として12月18日（日）に開催いたします。本大会が、皆様の研究的交流や実践における研鑽の場としても役立てば幸いです。

2011年12月

日本発達障害支援システム学会

第10回研究セミナー／研究大会準備委員会

実行委員長 菅野 敦

会場へのご案内

東京学芸大学 小金井キャンパス

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

■最寄り駅

(1) JR 中央線 武蔵小金井駅・北口より

【京王バス】[5番バス停]「小平団地」行に乗車、約 10 分。

「学芸大正門」下車、徒歩約3分(駅から徒歩の場合は約 20 分)

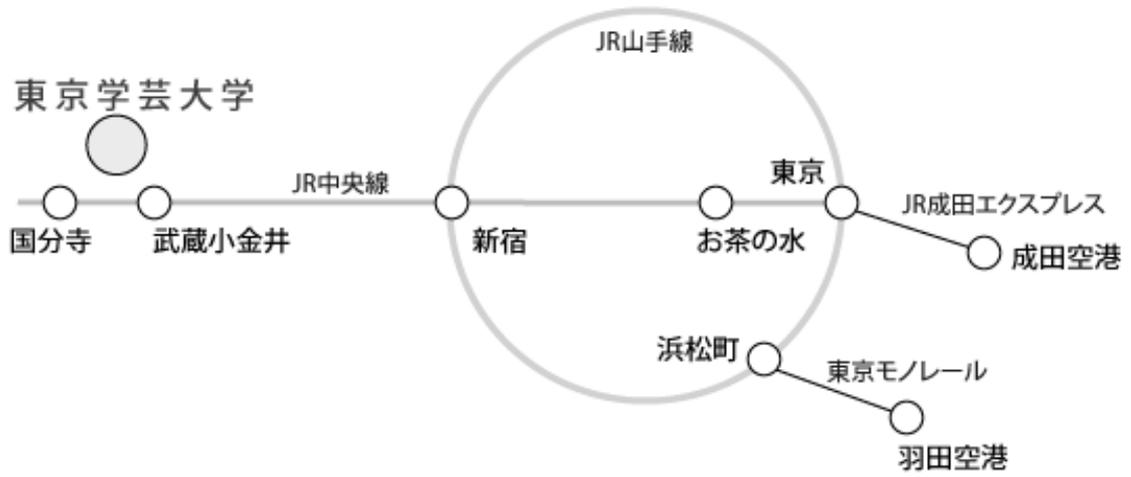
(2) JR 中央線 国分寺駅北口より

徒歩約 20 分

(JR 国分寺駅北口 → 早稲田実業学校 → 連雀通り／小金井市保健センター前)

※東急東横線「学芸大学」駅ではございませんのでご注意ください。

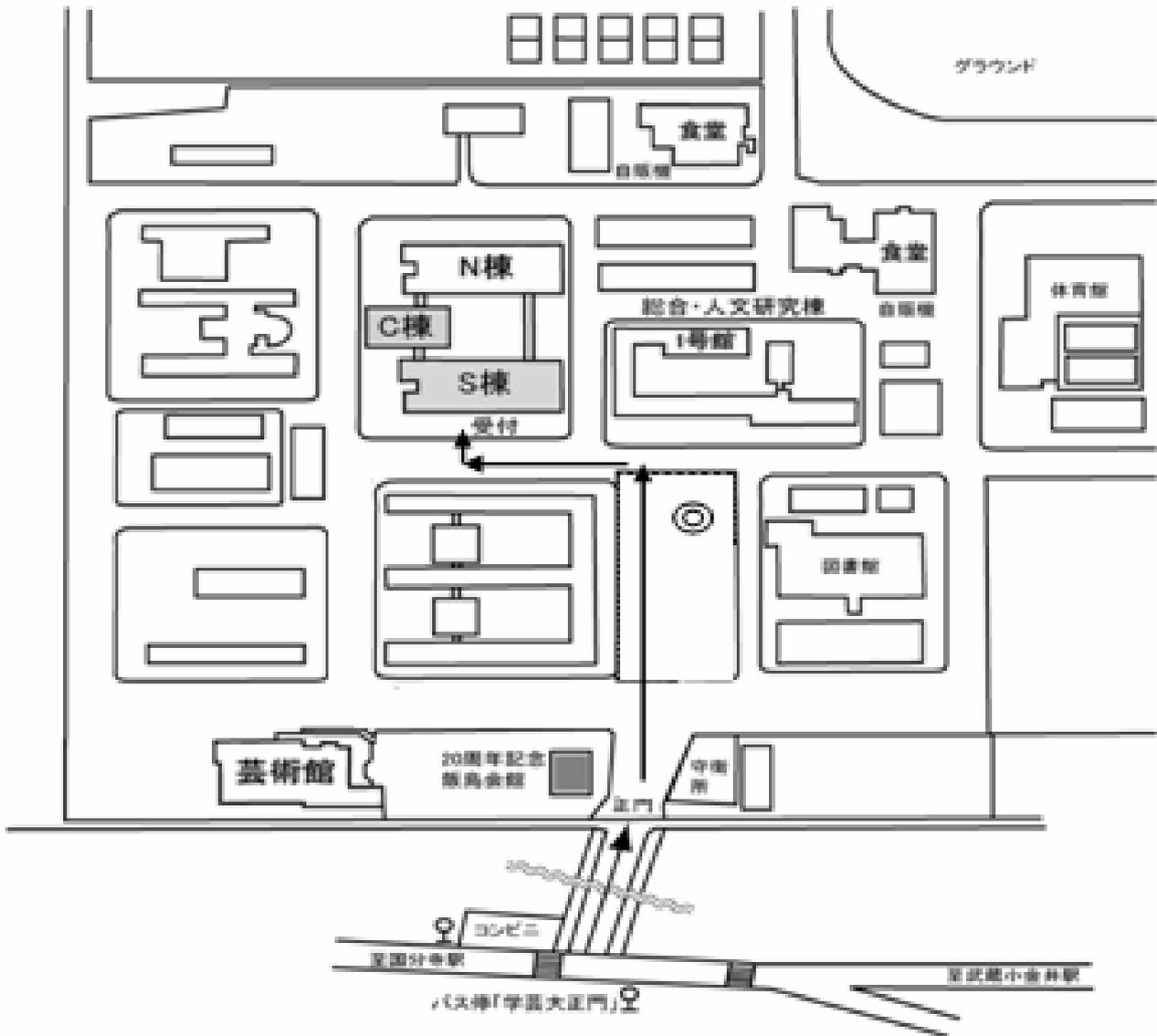
最寄駅へのアクセス



最寄駅からのアクセス

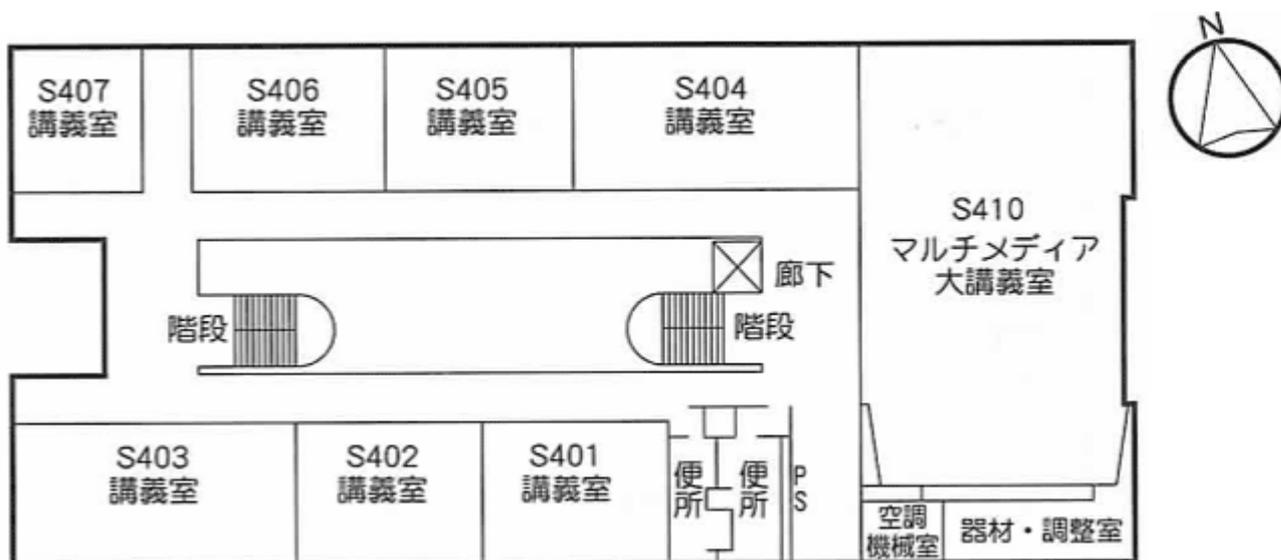


構内案内【東京学芸大学小金井キャンパス】



会場配置図

南講義棟（S棟4階）平面図



会場案内

講義棟(S棟)4階

- 受付 (S410 教室前) 【12:00～ 】
- 記念講演 (S410 教室) 【12:30～13:20】
- ワークショップ (S410 教室) 【13:30～14:50】
- 各種分科会 (S403, S404, S405, S406, S410 教室)
【15:00～17:00】
- ポスター発表 A, B (S401, S402 教室)
【掲示 15:00～17:00】
【在席 16:15～17:00】

飯島記念館【2階】

- 懇親会 【17:15～18:30】

参加者へのご案内

I 受付

1. 大会期間中は受付でお渡しする参加章（氏名・所属を記入したもの）をお付けください。
参加章は大会参加費の受領証を兼ねています。
2. 受付場所は教育講演会場前にて行います。受付時間は **12:00~** です。

事前申込（12/8 まで）の場合 2,000 円

当日参加の場合 2,500 円

（いずれの参加費にも論文集代が含まれます。

論文集は当日受付でお渡しします。）

発表費：1 演題あたり 1,000 円

懇親会参加費：3,000 円（当日参加は 3,500 円）

| | 事前申込 (12/8まで) | 当日参加 |
|------|------------------|--------|
| 参加費 | 2,000円 | 2,500円 |
| 発表費 | 1,000円 | — |
| 懇親会費 | 3,000円 | 3,500円 |

II 会場関係

会場は南講義棟 S 棟の講義室を使用します。使用講義室は 4 階 S410 教室（記念講演・ワークショップ、分科会）S401・S402・S403・S404・S405・S406 教室（各分科会、ポスター発表）です。

III 懇親会

大会終了後の 17:15~18:30 に飯島記念館 2 階にて行います。

懇親会は当日も参加受付をしますが、人数に限りがありますので、できるだけ事前にお申込みください。参加費は 3,000 円です。（当日参加は 3,500 円）

IV 連絡先

会期前、会期中ともに、大会準備委員会（実施本部）への連絡は下記まで、電子メールでお願いします。実施本部では、当日 15 分ごとにメールチェックをおこないますので、緊急の連絡などありましたら連絡先電話番号などをお知らせいただければ、メールチェック確認後、本部よりご連絡させていただきます。

日本発達障害支援システム学会第 10 回大会準備委員会

電子メール jassdd@u-gakugei.ac.jp

研究発表者へのご案内

【口頭発表】

1. 発表時間

- 1) 発表時間は1発表につき15分で、質疑応答の時間3分が含まれます。
- 2) ご自身の発表時間以外は、他の分科会場やポスター会場にいらっしゃっても構いません。但し、学会場から出てしまうことはご遠慮下さい。終了時間の17:00まではご参加頂くことが義務づけられます。
- 3) 進行係が以下のように時間経過をお知らせします。
発表開始後10分：1鈴 12分：2鈴（発表終了） 15分：3鈴（質疑応答終了・交替）

2. 発表用機器

発表にパソコンを使用する方は、発表データをUSB接続フラッシュメモリに保存し、セッション開始前までに会場にお越し下さい。パソコンは、Windows XP（パワーポイント2010以下）を用意いたします。なお、Macintosh版データや動画などが含まれるデータは、映像に支障をきたす場合がありますので、パソコンをご持参下さい。

3. 座長の方へ

- 1) 座長の方は担当セッションの司会・進行をお願い致します。特に制限時間を厳守するようにお願い致します。
- 2) 各セッションに2名の座長をお願いしています。欠席の場合には新たに座長を決定しますので、前日までにE-mailにて大会準備委員会に必ずご連絡ください。

4. 質疑・討論について

質疑や意見を述べる際には、事前に所属・氏名を明らかにしてください。
また、30秒以内に簡潔にお願いします。その他、座長の指示に従って、セッションの進行に支障がないようにしてください。

5. その他

- 1) 座長及び発表者は、セッション開始5分前までに当該分科会場に在席してください。
- 2) 研究発表の資料は発表論文集をあてるのが原則ですが、補足資料の配布が必要な場合には、事前に発表者が必要部数を用意し、各会場の資料配布台に置いてください。

【ポスター発表】

1. 発表者は、発表時間中ポスターを掲示すると同時に指定された時間在席し、参加者と質疑応答することにより、正式発表とみなされます。座長の進行のもと、簡潔に研究概要の説明と、質疑応答を行っていただきます。
2. 発表者は、総合受付にて発表受付を済ませ、発表開始5分前までにポスターの掲示を完了してください。
3. 掲示時間は15:00～17:00、在席責任時間は16:15～17:00です。ポスターは壁またはパーテーションに掲示してください。
4. ポスター掲示範囲は横幅80cm×縦150cm以内が適当です。ポスターの最上部には、発表題目（フォントサイズ目安：72ポイント）、発表者氏名（筆頭発表者に○を付ける）、及び所属を明示してください。本文は全紙、または何枚かに分けて貼る等の方法で掲示してください。文字の大きさや図、表の作成には特に注意してください。込み入った図や表の使用を避け、2m離れたところから全体を読めるようにしてください。
5. 掲示用のセロハンテープは会場内に用意してあります。
6. 当日資料を配布される方は、各自で必要部数を用意し、配布してください。個人情報との関係で、資料回収を必要とする場合は、発表者が責任をもって回収、処分してください。
7. 発表時間が終了したら、直ちにポスターを撤去してください。

大会スケジュール

12月18日(日)

| 会場 S棟4階 | S410教室 | S401,S402教室 | S403教室 | S404教室 | S405教室 | S406教室 |
|------------|--|--|----------------------------------|----------------------------|-----------------|---------------------|
| 12:00 | 受付(会場前) 開会 | | | | | |
| 12:30 | 記念講演 講師 菅野 敦 (東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授) | | | | | |
| 13:20 | | | | | | |
| 13:30 | ワークショップ 講師 大伴 潔 (東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授) | | | | | |
| 14:50 | | | | | | |
| 15:00 | 第1分科会 学習支援領域 | ポスター発表 分科会A, B 掲示: 15:00~17:00 発表者在席: 16:15~17:00 | 第5分科会 生涯発達支援・ 支援システム 領域 | 第2分科会 コミュニケーション 支援領域 | 第4分科会 生活支援領域 | 第3分科会 就労支援 領域 |
| 17:00 | | | | | | |
| 17:15 | 懇親会 (飯島記念館2階) | | | | | |
| 18:30 | | | | | | |

プログラム案内

＝第1部＝ （会場：S410 教室）

※学校心理士更新ポイント B

記念講演 12:30～13:20

『今、あらためて障害者支援を考える』

—生涯発達支援・地域生活支援をめざして—

【講演】

東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授 菅野 敦

【講演者プロフィール】

現在、東京学芸大学教育実践研究支援センター特別ニーズ教育研究支援部門、および総合教育科学系特別支援科学講座特別ニーズ教育分野の教授で、2010年度より附属世田谷中学校校長も併任。専門分野は知的発達障害の心理学で、研究課題は「知的発達障害の生涯発達支援、および生涯学習支援、そして、ダウン症候群の障害特性と支援方法の開発」をテーマに、幅広く研究を行っている。

また、日本発達障害支援システム学会においては、発足以来10年間、会長を務めている。

【主な著書】

- 2010年 『知的障害者の生涯学習支援～いっしょに学び、ともに生きる～』
共著（社会福祉法人東京都社会福祉協議会）
- 2010年 『新ダウン症児のことばを育てる～生活と遊びの中で』（福村出版）
- 2009年 『やってみよう！自立支援ワークブック』（角川学芸出版）
- 2008年 『発達障害 基本用語事典』共著（金子書房）
- 2008年 『障害児者の理解と教育・支援』（金子書房）
- 2005年 『ダウン症ハンドブック』共著（日本文化科学社）
- 2005年 『知的障害者の退行の発見・予防・ケア』（社団法人 日本知的障害福祉連盟）

ワークショップ

13:30～14:50

『アセスメント法の個別指導計画への活用』

—LCスケール(言語・コミュニケーション発達スケール)を用いて—

【講演】

東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授 大伴 潔

【講演者プロフィール】

東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授。現在、東京学芸大学附属特別支援学校校長も併任。学術博士（Ph.D.）

専門分野は言語コミュニケーション障害学、特別支援教育。主な研究課題は言語・コミュニケーションの評価と支援方法の開発。

【主な著書】

- 2010年 『シリーズ子どもへの発達支援のエッセンス
第1巻生きたことばの力とコミュニケーションの回復』（金子書房）
- 2008年 『言語・コミュニケーション発達スケール LCスケール』（学苑社）
- 2008年 『言語・コミュニケーション発達の理解と支援プログラム
—LCスケールによる評価から支援へ—』（学苑社）
- 2008年 『障害児者の理解と教育・支援—特別支援教育／障害者支援のガイド—』（金子書房）

＝第2部＝

第1分科会 学習支援領域＝（S410 教室）

座長：小島道生（岐阜大学）・増澤 貴宏（長野県木曾養護学校）

- 1-1 『中学校教師の発達障害児への自尊感情支援に関する実践状況』
発表者：小島道生(岐阜大学教育学部)
- 1-2 『高校における特別支援教育の実践と課題』
発表者：竹本弥生(神奈川県立綾瀬西高等学校)・田部絢子（東京学芸大学大学院博士課程/
成女学園中学・成女高校）・高橋 智（東京学芸大学）
- 1-3 『ひらがなの習得困難児への個別指導』
発表者：富永由紀子(明星大学大学院)
- 1-4 『発達障害生徒のソーシャルスキルを高める支援のあり方』
発表者：増澤貴宏(長野県木曾養護学校)
- 1-5 『中高一貫校の生徒への学習方略支援に関する研究』
発表者：三浦巧也(東京学芸大学大学院)
- 1-6 『特別支援学校高等部「生徒急増化」要因に関する一考察』
発表者：遠藤俊子(日本女子大学大学院)
- 1-7 『自己肯定感を育てる造形表現』
発表者：早川 礎子(愛国学園大学)

第2分科会 コミュニケーション支援領域＝（S404 教室）

座長：林安紀子（東京学芸大学）・細川かおり（鶴見大学）

- 2-1 『ダウン症児・者の対人関係の特性に関する研究』
発表者：伊麗斯克(東京学芸大学教育学研究科)・菅野敦(東京学芸大学)
- 2-2 『成人期自閉症者における対人意識の向上を目標とした活動プログラムの実践』
発表者：清水美和、福島章・伊藤浩・小笠原拓(社会福祉法人にじの会)
- 2-3 『通園施設における指示理解能力の向上に向けた取り組み』
発表者：鈴木美代・高橋淳子・古澤康子・水澤京子・田野東子・山元佳恵・
浮穴寿香(三鷹市北野ハピネスセンターくるみ幼稚園)
- 2-4 『特別支援学校における生徒同士のかかわりを促す支援方法の検討』
発表者：長谷川剛広(群馬大学大学院)・霜田浩信(群馬大学)
- 2-5 『ダウン症児・者の「行動問題」に関する検討』
発表者：濱崎優莉香(東京学芸大学大学院)・菅野敦(東京学芸大学)
- 2-6 『シンボルによる叙述表現の習得過程』
発表者：前田典子(東京学芸大学大学院)・大伴潔(東京学芸大学)

第3分科会 =就労支援領域= (S406 教室)

座長：原智彦（東京都立青峰学園）・平井威（東京都立七生特別支援学校）

- 3-1 『キャリア教育の観点から見た「青峰版チェックリスト」の活用のあり方』
発表者：原智彦・永峯秀人・小澤信幸・山崎達彦(東京都立青峰学園)・菅野敦(東京学芸大学)
- 3-2 『職業学科における知的障害が軽い生徒たちを対象とした進路学習』
発表者：山崎達彦・原智彦・小澤信幸・荻原稔・永峯秀人(東京都立青峰学園)
- 3-3 『外注作業を取り入れたロジスティクスコースの授業実践』
発表者：永峯秀人・小澤信幸(東京都立青峰学園)
- 3-4 『知的障害教育における職業教育の変遷に関する研究』
発表者：尾高邦生(東京学芸大学大学院・東京学芸大学附属特別支援学校)・渡邊貴裕(順天堂大学)・菅野敦(東京学芸大学)
- 3-5 『特別支援学校を卒業した知的障害児施設入所者の地域移行に関する研究1』
発表者：大沼健司・平井威(東京都立七生特別支援学校)、菅野敦(東京学芸大学)
- 3-6 『知的障害者就労事業所における作業提供に関する検討』
発表者：和田智之(社福 武蔵野千川福祉会)

第4分科会 =生活支援領域= (S405 教室)

座長：京林由季子（岡山県立大学）・野田香織（獨協医科大学越谷病院・東京大学）

- 4-1 『保健師が困難を感じる保護者の特性と養育環境に関する予備的検討』
発表者：野田香織(獨協医科大学越谷病院・東京大学) 作田亮一(獨協医科大学越谷病院子どものこころ診療センター)
- 4-2 『病弱特別支援学校寄宿舎における子どもの多様な「発達と生活の貧困」の実態と教育支援(第2報)』
発表者：小野川文子(東京都立久留米特別支援学校)・高橋智(東京学芸大学)
- 4-3 『児童デイサービスでの母子参加型集団療育が親支援に与える影響』
発表者：小林健史(北海道医療大学)
- 4-4 『知的・発達障害児の保護者の支援ニーズに関する検討』
発表者：中嶋はるか(賀川学園)
- 4-5 『ダウン症者の唾液アミラーゼの変化とストレスに関する事例的検討』
発表者：京林由季子(岡山県立大学)・細川かおり(鶴見大学短期大学部)・中西晴之・丸山徳晃(社会福祉法人試行会 青葉メゾン)
- 4-6 『不適応行動の見られる成人期自閉症者への支援』
発表者：藤代渉史・斗舛もも子・安達めぐみ・小林倫(社会福祉法人湘南の凧えいむ)
- 4-7 『通園施設における「姿勢保持」の力を育てる取り組み』
発表者：古澤康子・水澤京子・高橋淳子・鈴木美代・田野東子・山元佳恵・浮穴寿香(三鷹市北野ハビネスセンターくるみ幼児園)

第5分科会 =生涯発達支援・支援システム領域= (S403 教室)

座長：伊藤浩（社会福祉法人にじの会）・爲川雄二（東北大学）

- 5-1 『Web サイトに求められる発達障害児者支援（2）』
発表者：爲川雄二（東北大学）・橋本 創一・林 安紀子・菅野 敦(東京学芸大学)
- 5-2 『児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究（第3報）』
発表者：内藤千尋・田部絢子（東京学芸大学大学院）・高橋智（東京学芸大学）
- 5-3 『ダウン症候群における注意機能の検討』
発表者：伊藤浩（社会福祉法人にじの会）・菅野敦（東京学芸大学）
- 5-4 『成人知的障害者における感覚統合療法の事例的検討』
発表者：小笠原拓・中嶋みゆき・時田秀明・伊藤浩（社会福祉法人にじの会）
- 5-5 『知的障害者の地域移行支援の検証』
発表者：照沼潤二（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）
- 5-6 『知的障害者の障害特性における運動機能の違い』
発表者：田島多恵子・貝沼寿夫・伊藤浩・比企通男（社会福祉法人にじの会）

ポスター発表分科会 A (S401 教室)

座長：霜田浩信（群馬大学）

- PA-1 『病弱特別支援学校から発信する通常学級における中学校社会科のユニバーサルデザインによる授業づくりの提案』
発表者：川池順也(東京都立久留米特別支援学校府中分教室)
- PA-2 『通常学級の発達に遅れの疑いがある児童の支援ニーズに関する研究』
発表者：熊谷亮(特定非営利活動法人発達支援研究所スプラウト)
- PA-3 『小中学校へ派遣された大学生ボランティアが抱える困難さ』
発表者：霜田浩信(群馬大学)・井澤信三(兵庫教育大学)
- PA-4 『発達障害児の余暇支援活動におけるソーシャルスキル・トレーニングの視点を導入した実践』
発表者：宮崎義成・田中里実(東京学芸大学大学院)・石坂みのり(東京都小金井市第四小学校)・斉藤理恵子(安全ネット八王子)・霜田浩信(群馬大学)・橋本創一(東京学芸大学)
- PA-5 『特別な支援を必要とする児童の在籍する学級の1年間の変化』
発表者：山田 真幸(東京学芸大学大学院)
- PA-6 『広汎性発達障害のある生徒の問題行動への介入』
発表者：中村昌宏(東京学芸大学附属特別支援学校)
- PA-7 『発達障害児の対人トラブル場面における自己・他者理解』
発表者：田中里実(東京学芸大学大学院)・秋山千枝子(あきやまこどもクリニック)・橋本創一(東京学芸大学)
- PA-8 『自閉症児に対する共同行為ルーティンを用いた他物品要求言語行動の形成』
発表者：鄭ヨンジュ(東京学芸大学大学院)

- PA-9 『高機能自閉症児との会話における対話者の発話特徴』
発表者：根岸由佳理(東京学芸大学大学院)
- PA-10 『特別支援学校における海外修学旅行の意義』
発表者：真下和将(群馬大学大学院)・霜田浩信(群馬大学)
- PA-11 『保育巡回相談における保育者への専門的助言のための観察シートの開発』
発表者：松尾彩子(東京学芸大学大学院)・林安紀子(東京学芸大学)

ポスター発表分科会 B (S402 教室)

座長：橋本創一 (東京学芸大学)

- PB-1 『成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究 (IV)』
発表者：今枝史雄(大阪府立八尾支援学校)・菅野敦(東京学芸大学)
- PB-2 『成人期知的障害者の生涯学習支援に関する検討』
発表者：烏雲畢力格(東京学芸大学大学院)・菅野敦(東京学芸大学)
- PB-3 『オープンカレッジ東京'11における科学講座の実践報告』
発表者：加藤宏昭(都立七生特別支援学校)・菅野敦(東京学芸大学)
- PB-4 『生涯発達にみる発達障害者の支援課題に関する研究Ⅱ』
発表者：城田和晃(都立矢口特別支援学校)・菅野敦(東京学芸大学)
- PB-5 『コミュニケーションの習得』
発表者：大平英一郎・笹井陽一郎(社会福祉法人湘南の風葉山はばたき)
- PB-6 『成人期重度知的障害者におけるボディコントロールと視覚認知能力の向上』
発表者：時田秀明・中嶋みゆき・小笠原拓・伊藤浩(社会福祉法人にじの会)
- PB-7 『知的・発達障害児の性的な行動・マナーに関する実態調査』
発表者：永田紗夕(特定非営利活動法人あかね会ゆうやけ子どもクラブ)
- PB-8 『成人期重度知的障害者に対する洗濯スキル向上のための環境設定の検討』
発表者：新津健朗・関百朋・伊藤浩・小笠原拓・貝沼寿夫(社会福祉法人にじの会)
- PB-9 『知的障害者におけるダンス活動参加の支援方法の検討』
発表者：安藤歩(群馬大学大学院)・霜田浩信(群馬大学)
- PB-10 『発達障害児の音韻認知に関する研究』
発表者：近藤綾子(東京学芸大学大学院)、出口利定(東京学芸大学)
- PB-11 『知的障害者グループホーム・ケアホーム職員におけるバーンアウトに関する研究』
発表者：藤瀬 博子(社会福祉法人同愛会てらん広場)・福井里江(東京学芸大学大学院)
- PB-12 『重症心身障害者の生活実態について』
発表者：加藤昭和(若草)